

同級生との絆は、いまも



弁護士の間瀬美幸さん

(52、1983年卒)は
在校中、まわりの生徒に
影響を受けて積極性を身
につけたという。高校3

年の時、球技の校内大会
が雨で中止に。ソフトボ
ールに出る予定だった櫻
井さんは担任の先生に相
談し、職員会議で直談判
した。「職員室に1人で
乗り込み『やらせてくだ
さい』と頼んだら、『じ
ゃあ、やったら』と先生
方が背中を押してくれま
した」

当時、多くの生徒が神
戸女学院大学に内部進学
するなか、受験して大阪
大学法学部へ。専業主婦
だった母の「一生働ける
だけのものを持ったらど
う?」という言葉もあ

「同級生とは今もつながり
が強い」と櫻井美幸さん

り、弁護士をめざした。
86年に男女雇用機会均
等法が施行。女性が働く
環境が今ほど整っていない
時代だった。90年代前
半、弁護士になりたての
ころは依頼者から「こん
な女の子に、何ができん
ねん」という空気を感じ
た。

「依頼者の」役に立つ
には、勉強するしかない
」。法律の世界は奥が
深く、日々の学びが欠か
せないという。「しゃく
し定規な対応ではだめ。
寄り添い、同時に距離を
保ち、解決の見通しを示
す。この仕事は、最後には
『人』が出ます。そこ
で恥ずかしくないようであ
りたい」

2人の娘を育てながら
働く日々を送る。「女学
院で過ごした6年間は、
自分の原点。何かあった
時、教室の風景が浮かぶ
んですね。心のよりどころ
になっっています」



「何でもやってみよう、と思わせてもらった」と
間瀬加奈子さん

同じく法曹界で活躍す
る弁護士の間瀬加奈子さ
ん(40、95年卒)は、学
校全体に「チャレンジす
るのが当たり前」という
雰囲気があったという。
在校中には「就職氷河
期」といわれ、進路にも
悩んだ。「外の世界に出
てみよう」と大学受験を
決めた。

高校3年だった95年1
月17日、阪神・淡路大震
災が発生。激震地の神戸
市東灘区において、「死を
覚悟するほどの揺れ」を
経験した。その日は、大
学入試センター試験を受
けた2日後。受験どころ
ではないなか、京都大学
法学部に合格した。

3学期は卒業直前まで
学校に通えなかった。久
しぶりに同級生に再会し
た時は「生きていて良か
ったね」と喜び合った。
震災を機に「いつどう
なるかわからないから、
悔いのないように生きよ
う」と思うように。大学
在学中から難関の司法試
験に挑戦した。

「受験勉強の時、同じ
く司法試験を受ける中高
の同級生と励まし合っ
た。女学院の絆は強いな
と改めて思いました」

4歳の娘がいる。「中
高の同級生には、今も
『子育て、どう?』とか
相談しますね。6年間に
つよに育ってきて、す
ぐにわかり合える安心が
あります」(中塚慧)